

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【postoperative quality of recovery scale】

【英】 postoperative quality of recovery scale

【略】 PostopQRS

【類】 術後回復評価スケール，2010年発表当初はPQRSと略されていたが，現在はPostopQRSとして商標登録されている

【用語解説】

術後患者の回復に対する評価は主に合併症の発症率や入院期間などに基づいて行われてきたが，近年，心理面や社会面など，より多面的な評価が求められるようになり，術後回復の質を評価するスケールが開発されてきている．国際的に統一された良質な術後回復の質を評価するスケールが望まれるが，日本語版が使用可能なスケールはまだ少ない．

一方で，高齢者手術の重要な合併症として術後認知機能障害が近年注目されている．しかし術後認知機能障害の診断には国際的に統一された診断基準がまだなく，従来は認知症検査として用いられるMMSE（Mini Mental State Examination）やMini-Cogが使用されていた．

そこで，認知機能も含めた術後回復の質を評価するスケールとしてPostopQRSが2010年に発表され，2012年にはPostopQRS日本語版も使用可能となった．

PostopQRSの評価項目はバイタルサインや興奮などの身体的要因，および痛み因子，抑うつなどの感情因子，ADL因子，麻酔満足度など手術に対する全体的な患者の展望，そして認知機能と多岐にわたり，評価は手術前，手術終了15分後，40分後，手術後1日目，3日目，3カ月後に行う．

また患者背景として喫煙歴や飲酒歴，併存疾患，就労の有無，手術時間，麻酔種別などについても評価する．

PostopQRS日本語版についての報告はまだ少なく，更なる研究が望まれる．

その他必要事項（本用語とつながりの深い専門分野，関連学会など）：

周術期管理

（国立病院機構東京医療センター 麻酔科 安村里絵）

本誌316pに記載